

芦屋港活性化推進事業について



平成30年 8月

芦屋港活性化推進室 事業推進係

1 芦屋の概要

芦屋町は福岡県の北端、響灘に面した町です。行政面積11.60km²のうち、町の中央部を流れる一級河川遠賀川と航空自衛隊芦屋基地が約3分の1を占めているため、実行政面積は福岡県でも下位にあります。

芦屋町の特徴としてまずあげられるのが、美しく豊かな自然です。特に玄海国定公園を望む海岸線の美しさにあります。遠賀川を挟み東側は千畳敷や奇岩の連なる海岸線、西側は白砂青松を誇る海岸線と変化に富んでいます。

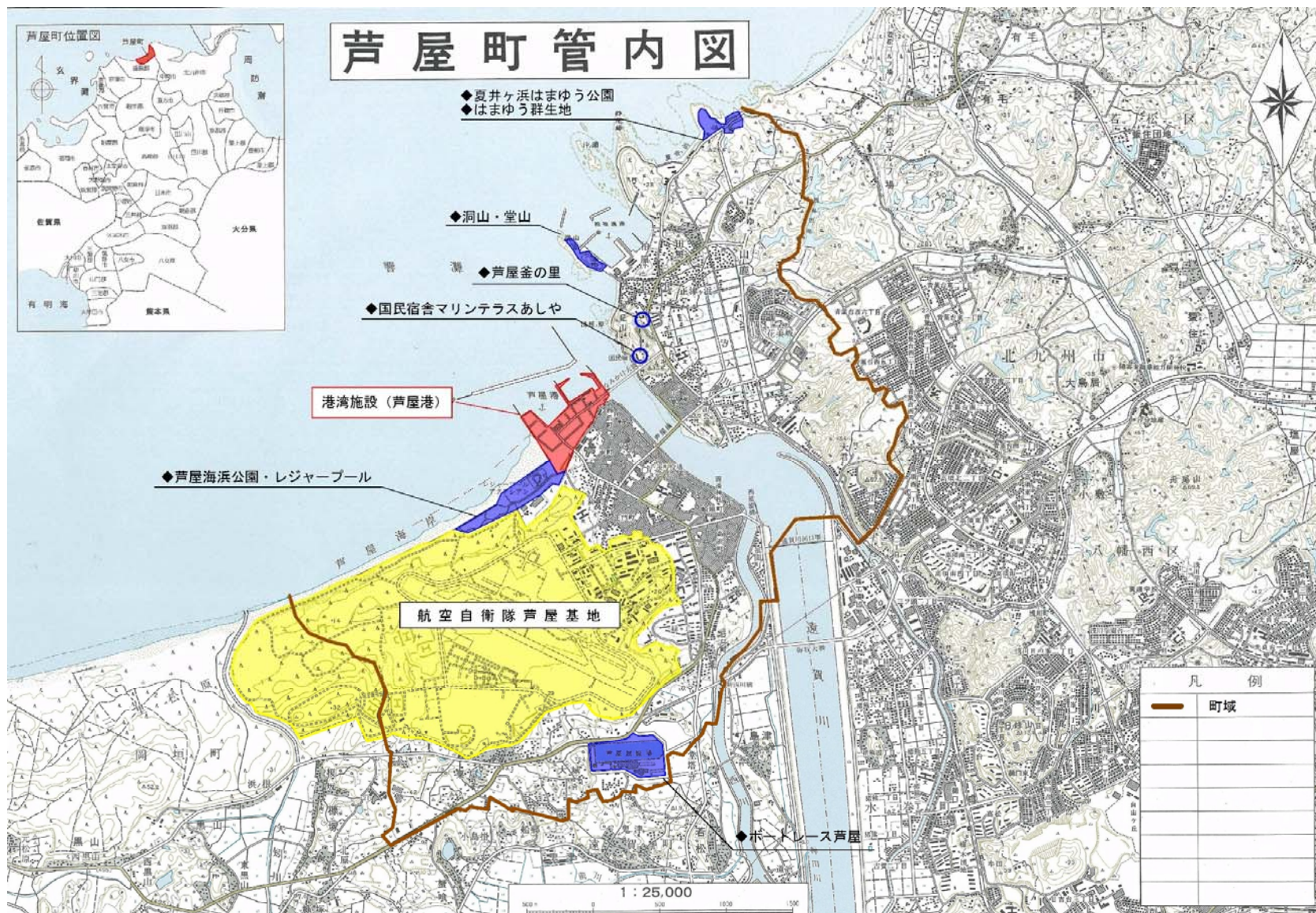


かつては「芦屋千軒・関千軒」と言われたほど交通や流通の重要な拠点としても栄え、今でも港町の風景が残っています。また、古い歴史をもつ神社仏閣や文化財が多く存在し、古くは日本書記にも登場するなど歴史・文化に富んだ町です。特に芦屋町の歴史を代表するものに「芦屋釜」が挙げられます。茶の湯釜として国の重要文化財に指定されている9点のうち8点が芦屋町で製作された「芦屋釜」で一世を風靡し、今でも茶道界では高く評価されています。



芦屋町は北九州地域の観光レジャースポットとして夏季を中心に多くの来町者がありますが、様々な資源のネットワーク化などによる滞在時間の延長や消費額の増など観光まちづくりを地方創生の柱として掲げています。

1 芦屋町の概要



2 概要

昭和61年に整備された地方港湾芦屋港は、最近では砂、砂利の移出入に活用されているが、当初期待されていた筑豊地域などからの物流基地としての機能が十分発揮できているとは言えない状況にあります。

しかしながら、芦屋港は、背後地に広大な緑地などを備え、一方で遠賀川河口に隣接し、多くの背後人口を有することから、芦屋町の観光拠点として高いポテンシャルをもつ港湾といえます。

また、芦屋町は北九州地域や筑豊地域からの観光レジャー地域として周辺地域に比べ多くの来訪者があることから、海岸線を活かした地方創生を掲げ様々な施策を展開していますが、芦屋港の活性化は大きな課題となっています。

このような状況を踏まえ、芦屋町では平成21年度から、港湾管理者である福岡県に対し、観光レジャーの要素をもつ港としての用途変更や事業の推進について要望や協議を行ってきました。



2 概要

平成27年度に福岡県による「芦屋港周辺における水辺の空間を活かした地域創生のための基盤整備検討調査」が実施され、ニーズ調査（アンケート調査、ヒアリング等）や関係者による意見交換（芦屋港活性化検討委員会）などにより、芦屋港を活性化させるための活用方策や機能についてまとめられました。併せて事業化に向けた課題が整理されました。

福岡県によるこの調査結果を踏まえ、事業化にむけて必要となる課題の解決を図るとともに、具現化を図るための計画を、芦屋町が主体となり平成29年度から30年度までの2年間で行うこととなりました。

この事業では、関係者協議の場として「芦屋港活性化推進委員会」（町の附属機関）を設置するとともに、利用者ニーズや商圈分析などのマーケティング調査、詳細な経営分析、管理運営に関する詳細検討などを踏まえた「芦屋港活性化基本計画」を作成するものです。



3 芦屋港の概要 (港湾計画の概要)

※福岡県作成資料より抜粋

港湾施設

■ 水域施設

施設の種類	名称	幅員 m	水深 m	面積千㎡
航路	芦屋航路	90	-5.5	(延長430m)
泊地	3号泊地		-3.0	49.6
	4号泊地		-4.5	33.4
	5号泊地		-5.5	45.6

■ 係留施設

施設の種類	名称	水深 m	延長 m
岸壁	5号岸壁	-5.5	90
	4号A岸壁	-4.5	180
	4号B岸壁	-4.5	60
物揚場	2号物揚場	-2.0	130
	3号物揚場	-3.0	190
	3号(2)物揚場	-3.0	102
	3号(3)物揚場	-3.0	155
	船揚場	船揚場	-3.0

■ 荷さばき地

施設の種類	名称	面積㎡
荷さばき地	荷さばき地	1,919.5

■ 上屋

施設の種類	名称	面積㎡
上屋	1号上屋	1,895

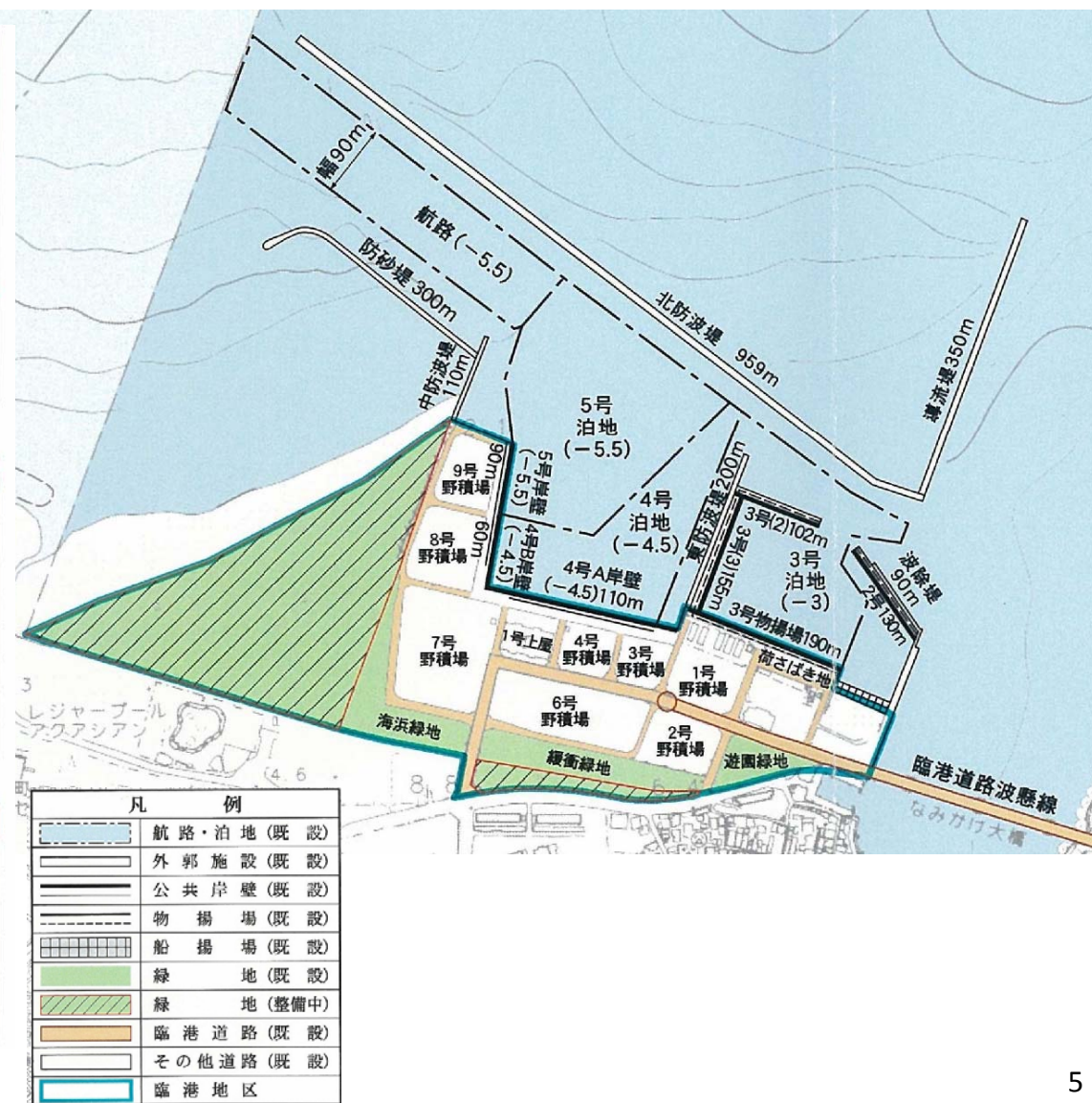


■ 保管施設

施設の種類	名称	面積㎡
野積場	1号野積場	5,266
	2号野積場	5,684
	3号野積場	3,603
	4号野積場	3,909
	6号野積場	12,076
	7号野積場	15,032
	8号野積場	7,306
	9号野積場	5,059

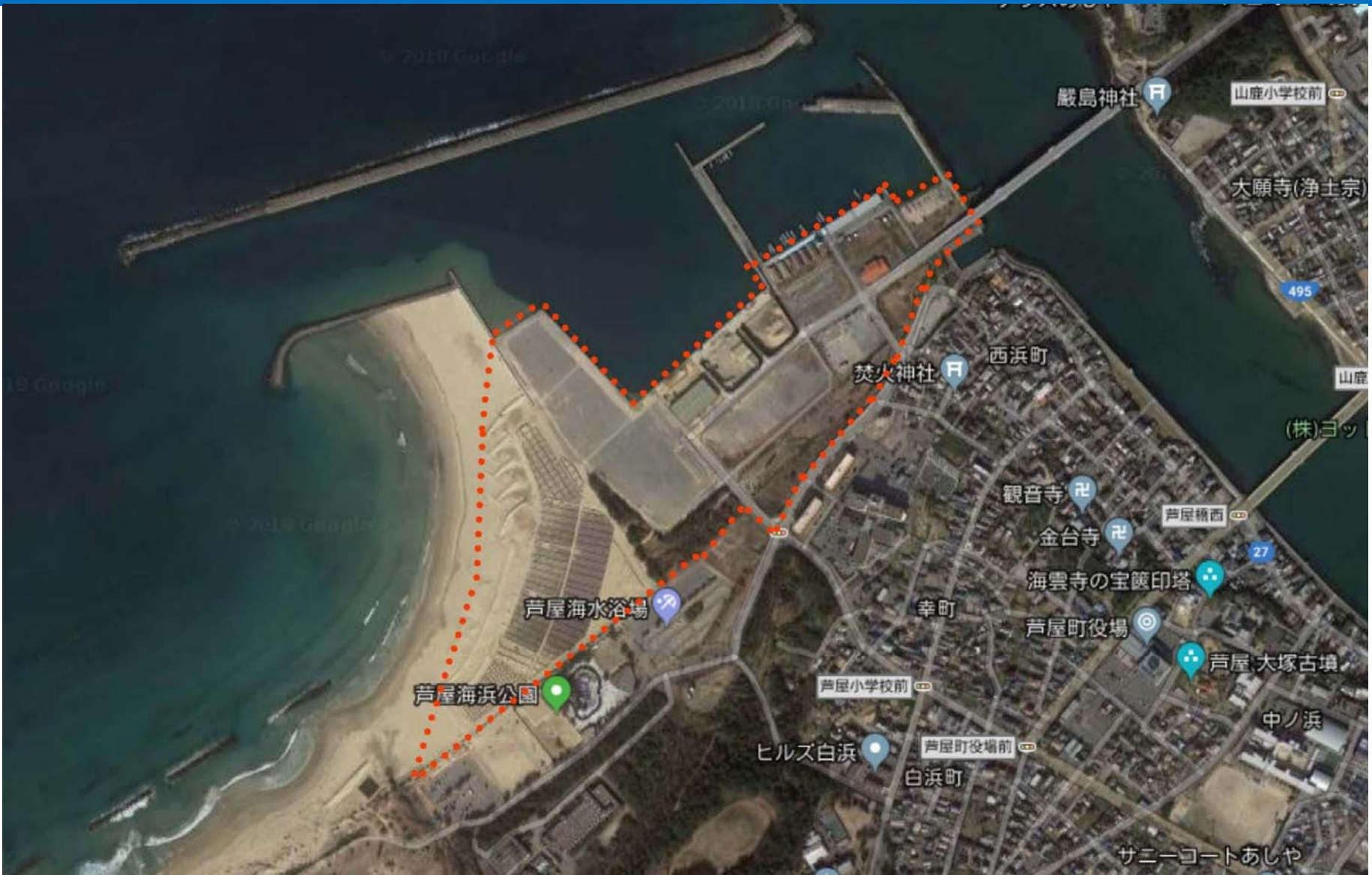
■ 外郭施設

施設の種類	名称	延長 m
防波堤	芦屋北防波堤	959
	芦屋東防波堤	200
	波除堤	90
	芦屋中防波堤	110
導流堤	芦屋導流堤	350
防砂堤	防砂堤	300



凡 例	
	航路・泊地(既設)
	外郭施設(既設)
	公共岸壁(既設)
	物揚場(既設)
	船揚場(既設)
	緑地(既設)
	緑地(整備中)
	臨港道路(既設)
	その他道路(既設)
	臨港地区

3 芦屋港の概要 (現況写真)



3 芦屋港の概要 (現況写真)



3 芦屋港の概要 (現況写真)



4 これまでの主な経緯（概要）

平成21年度	芦屋港の活性化について、管理者の福岡県に要望開始
平成22年度	福岡県によるニーズ調査（住民アンケート）実施
平成24年度	芦屋港港湾計画の改定（里浜事業実施のため）
平成27年度	芦屋港活性化会議（国交省、福岡県、芦屋町による三者協議） 2回開催
	福岡県による「 <u>芦屋港周辺における水辺の空間を活かした地域創生のための基盤整備検討調査</u> 」の実施 〔アンケート調査、関係者による意見交換（芦屋港活性化検討委員会3回開催）など〕 ※この事業により、将来案が示された
	芦屋町議会による「芦屋港の活用・活性化の推進を求める意見書」を福岡県知事に提出
	芦屋町議会による「芦屋港湾活性化特別委員会」の設置
平成28年度	福岡県と芦屋町による事務協議
平成29年度	芦屋町による「芦屋港活性化推進委員会」設置（附属機関） 芦屋町によるマーケティング調査、基本計画策定（30年度まで）

福岡県の調査業務により示された検討課題

「芦屋港周辺における水辺の空間を活かした地域創生のための基盤整備検討調査」（平成27年度福岡県実施）より抜粋

（１）関係者協議の推進

計画の具体化と円滑な推進に向けた情報収集と検討を重ねるため、地元住民や関係者、福岡県、芦屋町との意見交換の場の設置

⇒ 芦屋町主体による「芦屋港活性化推進委員会」の設置（平成29年8月設置）

（２）事業化に向けた詳細検討の実施

①マーケティング調査の実施

各施設や機能の具現化を図るために、利用者ニーズの把握や商圈分析など、詳細な調査分析

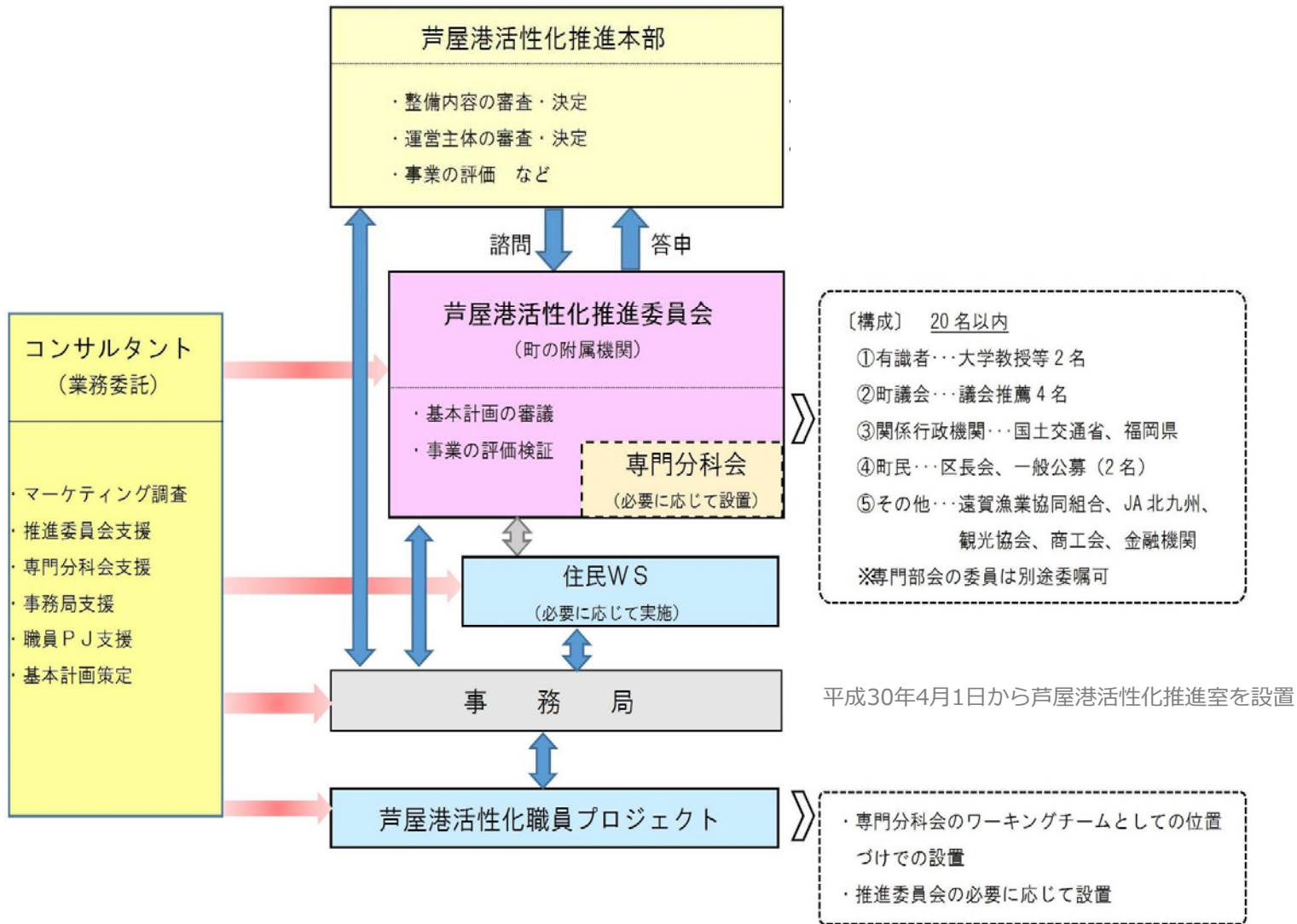
⇒ マーケティング調査業務委託（平成29年8月～）

②管理・運営に対する詳細検討

各施設の管理・運営方法に関する詳細な検討

⇒ 芦屋町主体による「芦屋港活性化推進委員会」（平成29年8月設置）による検討

5-1 事業の推進体制



5-1 事業の推進体制（芦屋町と福岡県の役割）

（1）芦屋町

- 芦屋港活性化推進本部設置
- 芦屋港活性化基本計画の策定（29年度、30年度）
 - ・芦屋港活性化推進委員会等の運営、事務局機能
 - ・芦屋港活性化推進業務委託
（マーケティング調査、委員会運営、管理運営方法検討、基本計画策定等）
- 専門部署の設置（30年度設置）
- 町内関係団体等との各種調整

（2）福岡県

- 港湾計画の改定
- 港湾機能整備に関する財源確保
- プレジャーボート係留施設等整備
- その他整備に伴う必要な財源確保と早期の事業着手にむけた検討・調整
- 国との各種調整、県内部との各種調整

5-2 芦屋港活性化推進委員会について

(1) 設置年月

平成29年8月

(2) 位置づけ

- 町長の諮問に応じて芦屋港の活性化に関する事項を調査・審議するもので、「芦屋港活性化推進委員会設置条例」に基づき設置するもの。
- 必要に応じて「専門部会」を設置することができる（専門的かつ集中的に審議する機関）。

(3) 委員構成

- 委員数：20名
 - ・有識者（大学教授）2名
 - ・芦屋町議会 4名
 - ・JA北九青年部 1名
 - ・金融機関 1名
 - ・国土交通省 北九州港湾・空港事務所 1名（所長）
 - ・福岡県 県土整備部 港湾課 1名（課長）
 - ・福岡県 県土整備部 北九州県土整備事務所 1名（所長）
 - ・福岡県 企画・地域振興部 広域地域振興課 1名（地域企画監）
 - ・区長会 2名
 - ・観光協会 1名
 - ・一般公募 2名
 - ・遠賀郡漁業協同組合 2名
 - ・商工会 1名
- 任期：2年間
- 事務局：芦屋町（芦屋港活性化推進室 事業推進係）
- オブザーバー：福岡県（港湾課、北九州県土整備事務所）
国交省遠賀川河川事務所、国交省北九州港湾・空港事務所



5-2 芦屋港活性化推進委員会について

(4) 審議内容

平成27年度福岡県による「芦屋港周辺における水辺の空間を活かした地域創生のための基盤整備検
調査」に基づく課題を調査・審議し、事業の具現化を図るための《基本計画》案をまとめる。

(5) 検討経過 (平成30年5月末現在)

回数	開催日程	場所	出席者数	審議内容
第1回	29年 8月29日 (火)	芦屋町本庁舎	19名	これまでの検討経緯について (共通認識)
第2回	29年 9月27日 (水)	芦屋町本庁舎	19名	芦屋町における観光動態、商圈分析 プレジャーボート係留施設専門分科会設置について
第3回	29年10月19日 (木)	豊前市/宗像市	13名	先進地調査 (うみてらす豊前、道の駅宗像、うみんぐ大島)
第4回	29年11月22日 (木)	芦屋町本庁舎	18名	芦屋港に必要な機能 (グループワーク)
第5回	29年12月19日 (火)	芦屋町本庁舎	17名	SWOT分析、芦屋港に求める機能・ターゲット層 (グループワーク)
第6回	30年 2月19日 (火)	芦屋町本庁舎	19名	課題の整理、検討の方向性
第7回	30年 3月19日 (火)	芦屋町本庁舎	19名	専門分科会報告、導入機能とゾーニング
第8回	30年 4月26日 (木)	芦屋町本庁舎	17名	導入機能とゾーニング
第9回	30年 5月10日 (木)	芦屋町本庁舎	18名	施設配置・動線の考え方整理、今後のすすめかた

5-3 専門分科会（プレジャーボート係留施設専門分科会）について

（1）設置年月

平成29年12月

（2）位置づけ

- 芦屋港活性化推進委員会における審議を専門的かつ効率的に審議。
- 福岡県による事業化（詳細設計）に必要な基本的な事項を整理。

（3）委員構成

- 委員数：6名
 - ・有識者（大学教授）1名
 - ・有識者（一般社団法人日本マリン事業協会九州支部）1名
 - ・遠賀郡漁業協同組合 2名
 - ・芦屋町観光協会 1名
 - ・利用者（西川連合会・芦屋船舶会）1名
- 任期：2年間
- 事務局：福岡県（北九州県土整備事務所砂防港湾課）／芦屋町
- オブザーバー：福岡県（港湾課）
国交省遠賀川河川事務所、国交省北九州港湾・空港事務所

（4）検討事項

- 係留隻数・配置計画
 - 利用料金・収益計画
 - 維持管理方法
- ※半径30キロ圏内の施設データを中心に、圏域外類似施設のデータ、不法係留船対策に関するデータ等を基に検討

5-3 専門分科会（プレジャーボート係留施設専門分科会）について

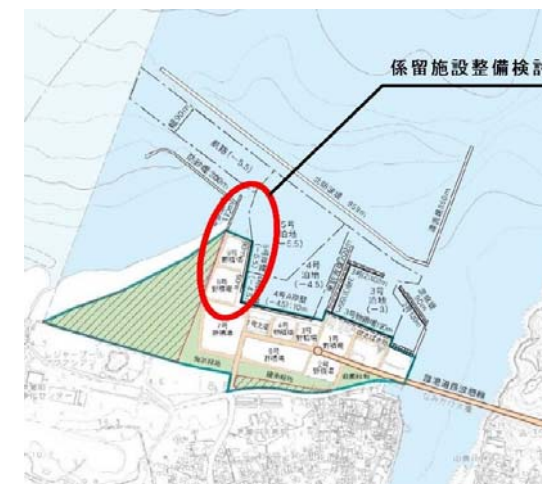
(5) 検討経過

回数	開催日程	場所	出席者数	審議内容
第1回	29年12月26日（火）	芦屋町本庁舎	6名	利用隻数の検討
第2回	30年1月26日（金）	芦屋町本庁舎	6名	利用隻数の検討、配置の検討、収支予測の検討
第3回	30年3月5日（月）	芦屋町本庁舎	5名	配置の検討、管理運営方法の検討
第4回	30年4月10日（火）	芦屋町本庁舎	6名	管理運営方法の検討、まとめ

(6) 検討結果

- 設置エリア 西側にある8号野積場、9号野積場、9号野積場北西側の水面
- 利用隻数 最大200隻（水上保管：71隻／陸上保管：129隻）
- 利用料金 近郊の類似施設と同料金程度の設定（損益分岐162隻）
- 維持管理方法 指定管理者制度
- 今後の検討課題
 - ・単なる放置艇対策ではなく景観に配慮し一定サービスを提供するマリーナとしての位置づけとエリア分けをし、サービス提供内容、利用料金について再検討
 - ・将来的なランニングコスト削減や効率化のため上下架用クレーンの設置を検討
 - ・漁協との事故防止のためのルールづくり

※この結果を踏まえ、県による詳細検討に入るが、詳細設計の時期は現時点で未定。



6 芦屋港レジャー港化の検討経過

(1) 課題の整理を踏まえ、芦屋港活性化推進委員会で合意された方向性

- 漁港を除いた全てのエリアをレジャー化する。
いわゆる完全レジャー化を目指した将来像を描いていく（物流機能は廃止）。
- 事業化にむけては、段階的な整備とし、実施できる部分から着手することで事業のスピードアップを図っていく。

(2) 芦屋港への導入機能

※ 導入機能を導いた考え方については次ページ以降に掲載

- 漁協の近さを活かした「魚食の拠点」 = 直売所、飲食店、体験機能
- 海釣り機能
- ボートパーク（プレジャーボート係留施設）

今後詳細を検討する機能

- 観光情報発信機能
- サイクリスト向け機能
- マリンアクティビティ機能
- 冬季悪天候対策として全天候型施設と機能
- イベント広場とアウトドア体験等の機能

今後絞り込みを行う機能

(1) 検討委員会での検討結果

SWOT分析の整理（第4回検討委員会まとめに、事務局一部加筆）

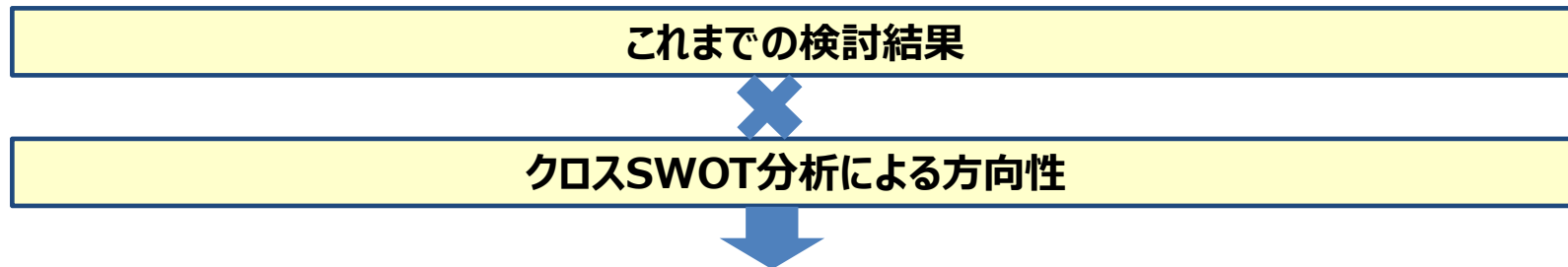
<p>【強み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月～11月は魚の種類が豊富である ・さわら、剣先イカが有名 ・夏には多くの観光客が訪れる ・サイクリングロードがある ・浜釣り大会や砂像展等町外から人を呼べるイベントあり ・隣接して漁港があり、魚介類の入手が可能 ・居酒屋、スナック等の夜のお店が多く、歩いて行ける ・芦屋港、後背地に広い敷地があり、開発の余地がある 	<p>【弱み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芦屋と言えば、という特産品がない ・新鮮な魚がとれるのに、買える場所がほとんどない ・家族で遊びに来てもお金をおとす場所（買い物、食事、体験など）が少ない ・情報発信が消極的、芦屋を知らない人が多い ・宿泊施設が少ない ・鉄道駅から離れており、公共交通でのアクセス性が低い ・昼に行けるお店、子供といけるお店が少ない ・近くに大学・高校がなく、若者の力を借りにくい ・若者が滞在できるオシャレな場所がない
<p>【機会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口の集中した都市圏（八幡西区・若松区）に隣接している ・アクアシアンや海水浴場、緑地帯と近接している ・市街地がコンパクトにまとまっている ・西側を向いており、夕日がきれい ・寺社仏閣、釜樹木などの歴史的資源が多い ・芦屋釜の里や歴史資料館などの文化体験施設がある ・国民宿舎マリントラスあしやが近くにある ・近隣に航空自衛隊の基地がある（見学などができれば） 	<p>【脅威】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・芦屋町の人口減少 ・漁業、農業従事者の高齢化・後継者不足 ・港に砂が蓄積しており、大型船が入港できない ・航空自衛隊の基地がある（騒音） ・車で来た場合、街中をとるため渋滞が予想される ・芦屋港や柏原漁港など、海岸線が北向きのため、冬期の風が強く、海も時化が多い。砂が舞うこともある

(1) 検討委員会での検討結果

クロスSWOT分析による方針検討（SWOT分析を踏まえ、事務局作成）

<p>【強み×機会】 積極化戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・魚種の豊富な時期（6月～11月）と、集客できる夏季が重なるため、来訪者に魚食を提供する仕組みをつくる ・海水浴場、寺社仏閣、芦屋港、文化体験施設等が近接しており、サイクリングロードがあることから、サイクリングでスポットを回りながら周遊できる環境づくりを行う（サイクルポート、ルート設定） ・居酒屋、スナック等が集積していて、市街地がコンパクトであることから、「夜の芦屋」の飲み歩きを展開する、また、飲み歩いた後の宿泊機能を強化する ・浜釣り大会や砂像展等町外から人を呼べるイベントがあることから、イベントと宿泊をパックにしたプランをつくる ・航空自衛隊の基地があるため、「自衛隊基地見学」などの強いコンテンツをつくる
<p>【強み×脅威】 差別化戦略</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産物のブランド化を図り、漁師の収入を増やし、後継者育成の流れをつくる ・冬は風が強く、砂が舞うなど観光に不向きな環境もあるが、今後の開発の中で全天候型のアクティビティ導入を検討しても良いと思われる
<p>【弱み×機会】 段階的施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・都市圏が近い集客した後、お金を落とせる仕組み（特産品、飲食、宿泊、体験など）を磨き上げる必要がある ・情報発信を強化して、「芦屋町」の認知度、関心度を高めていく必要がある ・公共交通のアクセスが弱いことから、鉄道駅発着のイベントや体験ツアーを造成する ・夜のお店が多い一方、昼のお店、子ども連れが行ける店が少ないので、親子連れをターゲットにした昼間楽しめる機能を導入する必要がある
<p>【弱み×脅威】 専守防衛・撤退</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・冬の屋外環境が厳しいため、冬は屋内の滞在の仕方を考える ・アクセスが悪く、認知度が低いから、「個人客を待つ」より「パッケージやイベントによる集客」を行う ・芦屋町の人口減少が進むため、町外をターゲットとする必要がある

(2) 検討委員会での結果を踏まえた導入機能の検討



【芦屋港周辺地域の方向性】

- ① 周辺施設と差別化を図りつつ、漁協の近さを活かした、「魚食の拠点（飲食、販売、体験）」としての機能を導入する
⇒ 新鮮な魚を楽しめるレストラン、漁師との距離の近い直売所、魚食体験施設の整備 など
- ② サイクリストが滞在できる機能の導入、マリンアクティビティが体験できる機能の導入を行う
⇒ 若者やファミリー層、インバウンドを対象にした、サイクルステーション、マリンレジャーの窓口（パラセーリング、カイトボードなどアクティビティの実施は里浜緑地ゾーン西側で実施）
- ③ 昼間は、屋内で楽しめる機能を導入する
⇒ ママ友、ファミリー層、シニア層等が楽しめるベーカリーカフェ、屋内型子どもの遊び場
- ④ 夏は海や砂浜を楽しめるアウトドア機能、冬季の悪天候対策として、全天候型のアクティビティを導入する
⇒ 子どもやファミリー層、若者等を対象とするイベント広場、BBQ広場、屋内型遊び場、砂像展示
- ⑤ 芦屋港周辺地域の強みである、「夕陽」や「居酒屋の多さ」を活かして、町内外の人が、夕方から夜にかけての芦屋町を楽しめるコンテンツの強化を行う
⇒ 幅広い年齢層に対応できるディナーを楽しめるレストラン、夜の芦屋飲み歩きマップ

7 芦屋港への導入機能の考え方

第8回芦屋港活性化推進委員会資料抜粋

(3) 想定する導入機能

1) レストラン

項目	内容
内容	<ul style="list-style-type: none">・芦屋町で水揚げされた水産物、収穫された農産物を活かした、海が見えるイタリアンレストラン・女性が入りやすいおしゃれな雰囲気・子ども連れが利用できるよう、子ども用いす完備、ベビーカーが通れるよう通路を広めにするなど配慮
ターゲット	<ul style="list-style-type: none">・家族連れ（小さい子供連れ）・ママ友・若いカップル
競争優位性 差別化ポイント	<ul style="list-style-type: none">・漁港近くの飲食店は「漁師」という荒々しさを前面に押し出しているが、このスタイルは供給過多で、やや飽きられている・洗練された空間で食事を提供するスタイルにする。また、フレンチなどを比較して安価に提供できるイタリアンレストランとする・漁港直送、産地直送の水産物、農産物を使うことで、既存のイタリアンと差別化を図る
競合の相手	<ul style="list-style-type: none">・町内外のイタリアンレストランなどの洋食屋
市場規模	<ul style="list-style-type: none">・芦屋港を中心とする自動車利用圏（30km圏内）では、200万人以上の人口がある
成果の指標	<ul style="list-style-type: none">・売上

〔参考〕 イメージ写真



葉山ホテル音羽ノ森



AMANDAN BLUE鎌倉

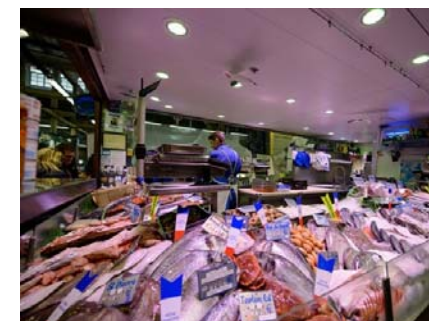
7 芦屋港への導入機能の考え方

(3) 想定する導入機能

2) 直売所

項目	内容
内容	<ul style="list-style-type: none">・芦屋町で水揚げされた水産物、収穫された農産物の直売所・生産者との触れ合いができることを売りにした、交流型の直売所・兵庫県の芦屋市が斜面地の閑静な住宅街のイメージであるため、「海の芦屋」としてのイメージを作り出す
ターゲット	<ul style="list-style-type: none">・家族連れ（子供連れ）・近所の住民
競争優位性 差別化ポイント	<ul style="list-style-type: none">・通常の地商品が陳列する直売所ではなく、生産者の顔が見える直売所・週に何度か、生産者が店頭立ち、「美味しい調理方法」「今が旬の食材」「良い食材の見分け方」などを教えてくれる・生産者との信頼関係が、食品への愛着となり、また購入したい意欲を沸かせる、リピートする仕組みづくり
競合の相手	<ul style="list-style-type: none">・自動車利用圏域の直売所、スーパー
市場規模	<ul style="list-style-type: none">・芦屋港を中心とする自動車利用圏（30km圏内）では、200万人以上の人口がある
成果の指標	<ul style="list-style-type: none">・来場者・売上

〔参考〕 イメージ写真



アリーグル市場（フランス）



ディジョンのマルシェ（フランス）

(3) 想定する導入機能

3) 様々な体験プログラム

項目	内容
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者との交流を前面に出した体験プログラムを提供、主婦対象、親子対象、父親対象など様々なプログラム（魚さばき体験、BBQテクニック体験、プランクBBQ体験、魚や野菜の目利き教室、料理教室など）を提供 ・従来の芦屋海水浴場にはないマリレジャー（漁船夕陽クルージング、バナナボート、パラセーリング、カイトボードなど）を導入し、若い観光客を呼び込む
ターゲット	<ul style="list-style-type: none"> ・家族連れ（子供連れ） ・若いグループ
競争優位性 差別化ポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者との近さを活かした体験プログラムを提供することで、漁港に近い立地であることを最大限生かす ・海水浴だけでなく、海を楽しむアクティビティを展開することで、新たな客層を呼び込む
競合の相手	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車利用圏域の海水浴場など ・周辺にはマリーナや釣り場はあるものの、アクティビティを提供する場所は多くない
市場規模	<ul style="list-style-type: none"> ・芦屋港を中心とする自動車利用圏（30km圏内）では、200万人以上の人口がある
成果の指標	<ul style="list-style-type: none"> ・体験料の売上

〔参考〕 イメージ写真



BBQ体験（日本BBQ協会）



パラセーリング
（そとあそびウェブサイト）

7 芦屋港への導入機能の考え方

(3) 想定する導入機能

4) サイクルポート

項目	内容
内容	<ul style="list-style-type: none">・サイクリングコースを利用する方が、芦屋港で休憩・滞在できる拠点を整備、サイクルラックや空気入れ、メンテナンスできる設備を備える・カフェなどは、サイクリストが、自転車に乗ったまま利用できるよう配慮（ドライブイン形式）・レンタサイクルも実施・サイクリストが利用できる宿泊施設も整備
ターゲット	<ul style="list-style-type: none">・若いグループ・インバウンド
競争優位性 差別化ポイント	<ul style="list-style-type: none">・サイクリストの目線に立った、利用しやすい施設とすることで、サイクリストに選ばれる施設になることを目指す・サイクリングコースはあったものの、本格的な休憩施設はなかったため優位と考えられる・周囲に宿泊施設が少ないため、一定水準の宿泊施設は優位性があり、かつ、レストラン等との相乗効果も高い
競合の相手	<ul style="list-style-type: none">・北九州サイクリングコースの各種施設
市場規模	<ul style="list-style-type: none">・日本全体では、自転車保有台数は7,000万台を超え、増加傾向にある・スポーツ自転車の売り上げは、10年前の3.5倍
成果の指標	<ul style="list-style-type: none">・利用人数

〔参考〕イメージ写真



サイクルポート
(ONOMICHI U2)



ONOMICHI U2では、自転車に乗ったまま買い物可能
(Tern公式ブログより)